

リハビリ通信 (第60号)

編集・発行：長野県立総合リハビリテーションセンター「支援部」

所在地：〒381-8577 長野県長野市大字下駒沢618-1

TEL・FAX：026-296-3953 (代表)

E-mail：reha-shien@pref.nagano.lg.jp

ホームページ：<https://www.nagano-reha.pref.nagano.lg.jp/shien/gaiyo>

当センターの浸水被害対策について

所長 清野 良文

令和3年4月より県総合リハビリテーションセンターに就任しました清野良文(きよのよしふみ)と申します。よろしくお願い致します。

当センターは令和元年10月、台風19号による千曲川決壊のため浸水被害を受けました。院内は約60cmの浸水でしたが電気や水道も止まったため、当日中にDMAT(災害派遣医療チーム)の協力のもと、全ての入院患者さんが他の病院へ避難していただくことになりました。その後も日本各地で大雨による大規模な災害が起きており、当センターでも浸水被害に対する対策を毎年更新しております。

自然災害に対する危機管理にあたっては情報収集が最も重要となりますが、千曲川河川事務所のホームページでは、千曲川や犀川のほぼ全域のライブ映像を見ることができます。また要所の水位がリアルタイムでグラフ化され、避難判断から氾濫危険までのどのレベルに達しているか簡単に確認できます。今年8月の西日本中心の長雨でも、立ヶ花では水位が避難判断レベルに達していました。特に長沼の千曲川ライブ映像は真夜中でも昼間の様に水位を確認でき、かなり整備が進んだことを実感しました。

気象庁提供の「キキクル」では、長野市周辺の土砂災害や千曲川の洪水災害が、どこでどの程度の危険が迫っているか一目でわかるようになっています。また台風の進路や雨雲レーダーによる今後の見通しなど総合的な情報を得ることができます。

当センターでも浸水などの危険が迫った際には、対策本部を立ち上げ、上記情報を総合的に判断し対応策を決定します。記録的な大雨が予想された時点で、①外泊できる方はご家族に連絡し一時的に家で待機、②転院が可能な方は事前に安全な病院へ転院するよう手配、③堤防決壊のリスクが高いと判断した場合は上層階への垂直避難を速やかに行うこととしています。

堤防の決壊リスクが高いといっても必ず決壊する訳ではないため、患者さんに避難していただいても不自由をかけ徒労に終わる可能性も多く、避難指示の決断はそう簡単ではありません。しかし、人命尊重、避難行動は余裕をもってという原則に立つと、念のために避難する必要もあり、その際にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。



施設棟浸水直前の東側駐車場の様子

当センター支援部では入所された皆さんの社会参加を目指し、個人の状況に応じてリハビリ等の訓練だけでなく、生活面、健康面の支援や復職への支援、退所後の自宅や施設での生活へつなぐ支援といった多方面からの支援を行っています。ここでは、その一例として入所中の利用者様の支援について紹介します。訓練等の詳細は表面記載のアドレスからのホームページをご参照ください。

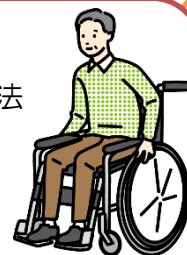
生活面について

日々ご本人とコミュニケーションをとりながら日常生活で見守りが必要な場面で支援を行っています。入所された頃は車いすからトイレへ移乗するのに手足の動かし方が分からなかったため、一つひとつ動作を口で説明しながら行いました。毎日同じ動作を繰り返すことで、現在はとてもスムーズに動作できるようになりました。

早く自宅に帰りたいというご本人の思いを聞き、当所の相談支援専門員や市のケースワーカーと連携し、介護保険の申請をしたり、日中活動の場を探したりしています。

健康面について

退所後の生活でご本人が自身の健康に関心を持ち、糖分や塩分の制限等の健康管理の方法や知識の習得を意識できるよう関わっています。入所時より、減量に関してご本人と共に取り組み、目標を達成することができました。また当施設は他職種で連携を取り、外部の医療機関の受診等を行なっています。



訓練について

ご利用開始時に機能評価を行い、それに基づいて身体機能や認知機能（高次脳機能面）のリハビリを実施しています。訓練では『リハビリを受ける』だけでなく、『自分で出来るリハビリ』の習得も目指して実施しています。また退所後の生活を考え、必要な動作の習得練習や家屋環境整備など行い、地域生活へスムーズに移行できるよう、支援を行っています。その他、職業訓練として片手でのパソコン操作の訓練を行なっています。

住宅改修について

安心してご自宅での生活を始められるよう、ご家族にご協力いただき、施設での生活に慣れた頃に住宅改修に向けての家庭訪問を実施しました。家庭訪問では、住宅改修施工業者、福祉用具レンタル業者同席のもと、理学療法士、作業療法士、看護師、生活支援員、相談支援専門員がそれぞれの立場からスロープの設置場所や手すりの位置などの状況を確認し、情報共有を行いました。

今後は、住宅改修完了後にご本人とともにご自宅を訪問し、動作確認等を実施する予定です。

上記サービスを受けた利用者様の感想

私は2019年に、脳梗塞で倒れ、左上下肢麻痺となり、車椅子での生活をしながら、リハビリテーションに取り組んで参りました。

以前の病院ではリハビリテーションを行なったのですが、満足のいく結果を残すことができずに、県リハへ入所となりました。当初は「リハビリに特化」した施設だと、思い込んでいましたが、最初の頃は毎日が驚きの連続でした。

一番感じたのは日常生活で行う行動のどれもが、将来の『自立』を見据えて組み込まれているということ。それが、無理には詰め込まれてはならず、目標に向かって、理学療法士、作業療法士の先生と一緒に考えて、そして、担当の看護師さん、支援員の皆さんの手厚いご助力などで、目標を達成する喜びを体感することができて、まだまだかも知れませんが、当初では考えられないくらい、日常生活等で、できることが増えたのではないかと思います。

そろそろ『退所』という話も出てきましたが、その日を迎えるギリギリまでもっと自分がやれることに力を注ぎ、復職して新たな人生のスタートが切れるよう、頑張っていきたいと思います。（男性・40代）